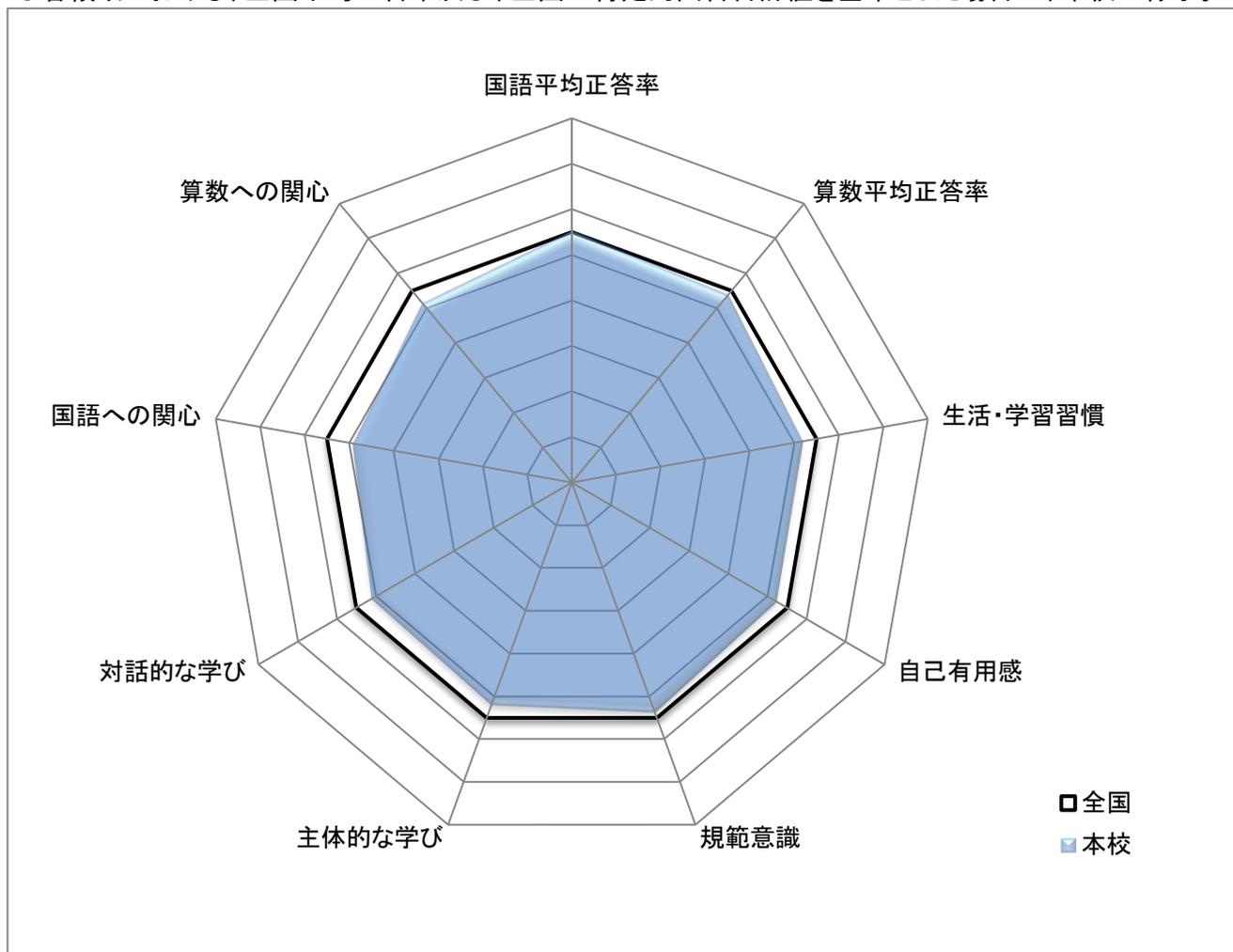


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

算数科の平均正答率は65%。全国平均正答率を-1、6ポイント下回った。領域別では、「数と計算」「量と測定」「数量関係」領域が全国平均正答率を下回り、中でも、「量と測定」では、全国平均正答率から-4、4ポイントと大きく下回った。国語科の平均正答率は64%。全国平均正答率より+0、2ポイント上回った。「言語」については3、6ポイント上回っているが「話すこと・聞くこと」の領域が全国平均正答率より-6、1ポイントと大きく下回った。
出題される問題形式の中で2教科共に記述式の回答正答率が低いことが分かった。

《授業改善のポイント》

与えられた課題に対して児童自身が自力解決する時間を設定したり、他者と考えを説明し合う時間を設定したりして学習内容の確実な定着を図りたい。算数科の「量と測定」領域問題では、デジタル教科書を使ったり、児童用の作業プリントを工夫したり具体物を活用したりして量感覚を養えるよう授業を改善していく。
国語科の「話すこと・聞くこと」に対しては、与えられた課題に対して自分の考えをもつだけでなく、その考えに対する理由や根拠を明確にする所まで丁寧に指導していく。
各教科への関心を高める為、導入の工夫、教材の工夫を行い、分かる喜びを味わわせ意欲の向上に繋げていく。また、2教科共に補習を活用し復習に取り組んでいく。

《チャートの特徴》

算数科、国語科ともに平均正答率は全国平均正答率に近い値を示すが、関心が全国平均よりも低い数値が目立つ。それに関係して、主体的な学び・対話的な学びにおいても全国平均より低い数値となった。これは、主体的・対話的な学習を着実に進めることができれば、児童の関心の高まりも見られると考えることができる。
規範意識は高く、実際の学校生活においても校内のきまりを守る児童が多い。生活学習習慣における「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の項目において全国平均よりも-9、2ポイントと大きく下回った。家庭学習の啓発が課題として挙げられる。

《家庭・地域への働きかけ》

保護者会や個人面談を通して児童の学習状況の現状を丁寧に伝えていきたい。学力定着のため毎日取り組む宿題についても保護者と連携ができる内容については協力をお願いしていく。